

豊橋駅南まちづくり ①

通称「水上ビル」は65年前後、牟呂用水の上に蓋(ふた)をする形で建てられた長さ800以上に及ぶ板状建築物群。3つのビル群から成り、「大手ビル」を除く「大豊ビル」と「豊橋ビル」が駅南地区にある。法人や個人が「土地」を河川管理者から借り、店舗や住宅として利用するビルだけを所有する。水路に沿って延々と連なる建物群は、景観的にも権利的にも全国に例はない。

霧囲気が漂う。最も盛期には、菓子、花火、玩具などの問屋が軒を並べ、遠方からの買い出し客でにぎわった。近年は、建築から45年以上が経ち、建物の寿命はあと10、20年と言われる。現行法下では、現状の区内の空き店舗や空き家を再生して活用する案を上げてい

空間を目指す。かつて清流として親しまれた「新川」が復活するかもしれない。しかし、豊橋駅前大通南地区まちなみデザイン会議常務理事

「これからの10年、スラム化せず、元気で長生きすることを考えたい。元気でいけば選択の幅が広がる」と言う。「ビジョン」では▽情報発信▽新たな魅力創出▽店舗の誘致▽個店の魅力向上や連携など、水上ビルの再生・活性化に取り組む方策を示す。水上ビルが元気で長生きする策を講ずる一方で「終わり」に向けた準備も始めなければならない。「地権者が多く、移転などの合意をとるのは時間がかかる。10年経ってノープランでは困る。今から将来のことを話し合わなければならない」と話す黒野さん。「最後は楽しく終わりたい」。

水上ビルの再生・活性化探る

元気なら広がる選択肢

年は、中心市街地の衰退とともに往時のにぎわいも消えた

る。

事の黒野有一郎さん

「豊橋駅前大通南地区まちづくりビジョン」では、10数年後に寿命の尽きた水上ビルを「建物が存在しない空間を創出する」ことを掲げる。自然の再生を図り、生き物が生息できる

「必ずしもビルの取り壊しが前提ではない」と説明する。戦後の闇市から派生した商店街などの移転先として建てられた水上ビルを「産業



64年建設の大豊ビル(左)と65年建設の豊橋ビル(右)

(石川正司)